

「TRANSFORM 2020」は 最終ステージへ。 高収益体質への変革に向けた 取り組みをさらに推進し、 強固な事業基盤を確立します。

代表取締役社長執行役員 荻野 博一

当期 (第68期) の業績についてご解説ください。

A 当期は、市場環境の変化に対応した施策や製品 ラインアップの拡充により、売上高、営業利益ともに 前期を上回ることができました。特に、当期は最優先 で収益力の向上に取り組んだ結果、粗利率が前期か ら改善し、着実に成果が現れていると言えます。

国内においては、急性期病院では、以前に地域医療 再生基金で導入された機器の更新が始まっており、また、中位機種ベッドサイドモニタの新製品効果もあり、 堅調に推移しました。一方、中小病院や診療所市場は 期待したほどの成長はありませんでしたが、医療需要が増加する首都圏では、営業リソースを重点的に配備した効果が徐々に現れてきています。特に国内においては売上の拡大を追うのではなく、粗利率の高い自社品の販売に注力しました。当期に発売した当社初の一体型全自動血球計数・免疫反応測定装置が非常に好評を得ており、さらに一般家庭向けAEDを発売するなど、今後も新製品の売上への寄与が期待できます。

海外においては、販売・サービス体制の強化などにより米国市場が好調だったほか、新興国市場ではアジアが成長を続けており、特に製品ラインアップを拡充した中国が好調です。インドも物品・サービス税の影響が緩和され回復基調にあります。欧州はロシアやトルコなどが政治や経済情勢の影響から低調に推移しましたが、海外市場全体としては好調に推移しました。ただ、主力となる生体情報モニタの各種新製品の開発に時間を要して投入が遅れたため、計画には届きませんでした。

○ 国内外の市場環境について お聞かせください。

A 国内では、2025年の医療・介護の将来像の実現に向けた医療制度改革が進められており、今後は、地域医療構想に沿った病床再編や統合が加速すると見ています。加えて、医療機器の更新時期を迎える急性期病院の需要を確実に捉えることが当社にとって重要になります。

海外の米国市場については、引き続き設備投資需要が活発です。米国では、大病院から診療所、介護施設までを包括する総合医療ネットワークの大規模化が進んでいます。医療機器においても、この状況に対応できる高度なネットワーク技術が要求されるとともに、サイバーセキュリティが機種選定の重要なポイントになっており、これらの対策を進めることで、当社の競争優位を高めることができると考えています。一方、新興国市場では、人口の増加に伴って医療機器の需要は拡大すると見られますが、一部の国では保護主義の傾向が強まっており、政治や経済情勢の変動に伴うリスクもあることから、それを織り込んだ対応が求められます。

中期経営計画「TRANSFORM 2020」の進捗状況はいかがでしょうか。

A 当期は、3ヵ年中期経営計画「TRANSFORM 2020」の2年目にあたります。2020年以降を見据えて「高収益体質への変革」を目指し、2つの基本方針である「高い顧客価値の創造」と「組織的な生産性の向上」を推進しています。

まず「高い顧客価値の創造」には、付加価値の高い新製品の投入が必要不可欠です。当期は、主力製品である中位機種ベッドサイドモニタCSM-1700シリーズを発売しました。CSM-1500シリーズとともに、当社の成長ドライバーとして期待しています。



また、保守サービス事業では、当期からIoTを活用した付加価値の高いサービスとして「MDリンケージ」の提供を開始し、非常に好評をいただいています。これは遠隔で機器の状況を監視し、事前に故障を予防する保守サービスで、血球計数器からスタートしました。今後は対応する製品を順次拡大する予定です。

次に「組織的な生産性の向上」では、拡大する海外 事業に対応したグローバルな生産・物流体制の構築 を推進しています。ITを最大限に活用して受注予測の精度を高めるとともに、富岡生産センタにおける生産効率の向上により一層のコスト削減を図り、グローバルサプライチェーンの改善を進めます。

開発効率の向上にも積極的に取り組んでいます。 開発拠点を集約した総合技術開発センタでは、技術 部門間の連携が進み、コア技術を融合した顧客価値 の高い新製品の開発を進めています。

さらに、企業体質の強化のため、在宅勤務やフレックスタイム制の導入といった働き方改革を推進するとともに、グローバル・コンプライアンス・プログラムを導入し、海外の現地社員も含めてコンプライアンスの強化を進めています。

次期 (第69期)は中期経営計画の 最終年度となりますが、主な取り 組みについてお聞かせください。

A 「TRANSFORM 2020」は2年目が終了し、いよいよ最終年度を残すのみとなりました。高収益体質への変革に向けた取り組みをさらに強化し、2020年以降の成長に向けて強固な事業基盤を構築したいと考えています。そして、メーカとしての原点に立ち返り、社会や競争環境の変化、技術革新の進展に適合していくことが必要となります。

そのために、69期はいくつかの戦略商品を市場に 投入します。まず、当社初となる人工呼吸器を発売 するほか、海外市場において成長のけん引役と期待 しているスポットチェックモニタと新興国向けベッド サイドモニタを投入します。さらに、救急車搭載除細 動器も発売する予定です。

もう一つ、69期の重要な課題として、グローバル サプライチェーンマネジメントの確立があります。 富岡生産センタを中心に米国、中国、マレーシアの 生産・供給体制を強化するとともに、年内に東日本物 流センタを設立、稼働する予定です。また、血球計数 器の設置が進む中東・アフリカ地域向けとしてドバイ に試薬工場を設立します。さらに、業務プロセス改

■中期経営計画「TRANSFORM 2020」



革では、海外販売子会社にERPを順次導入して業務 効率の向上と情報の一元管理を促進します。

株主の皆様へのメッセージを お願いします。

A 当社は、利益配分につきましては、研究開発や設備投資、M&A、人財育成など将来の企業成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期に亘って安定的な配当を継続することを基本方針としています。連結配当性向30%以上を目標として、株主の皆様への利益還元に努めてまいります。この方針に基づき、当期の期末配当金は1株当たり18円とさせていただきました。中間配当金17円と合わせて、年間配当金は1株当たり35円となります。次期の1株当たり年間配当金につきましては35円を予定しています。

当社は、患者さんを含めたすべてのステークホルダーの皆様に信頼される企業として、健全性、透明性、効率性を高め、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業へのご理解と一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。